

令和2年9月25日発行

若 樹

第215号



好球必打 この一球に集中！

(東村山市中学校スポーツ大会ソフトテニスの部の会場にて)

東村山市立東村山第二中学校

「ウサギとカメのお話」から学ぶ

校長 渡邊 宏一

このお話は、みんなが知っている有名な昔話ですが、その起源を調べると室町時代後期以降に日本へ伝わりました。もとのお話は、イソップ寓話で明治時代になって国語の教科書に「油断大敵」というタイトルで掲載されたことで、多くの人に知られました。

念のためにお話の内容は……ある時、ウサギに歩みの鈍さをバカにされたカメは、山のふもとまでかけこの勝負を挑みました。かけこを始めると予想通りウサギはどんどん先へ行き、とうとうカメが見えなくなってしまいました。ウサギはあまりにもカメが遅いので、余裕で居眠りを始めました。その間にカメは着実に進み、ウサギが目覚めた時には、山のふもとのゴールに着いていました。

このお話の教訓としては、「過信（自信過剰）して思い上がり、油断をすると成功を逃してしまう。また、実力が不足していたり、ゆっくりしたペースで遅くなくても、着実に真っ直ぐ進むことで、最終的に大きな成果を得ることができる。」というものです。本当にそれだけのお話でしょうか？



ウサギとカメの競走では、実は両者の目指すものが違っていたのです。ウサギは、「カメに勝つこと」が目標でしたが、カメは「山のふもとのゴール」を目標にしていました。もし、私がカメだったら、競走相手のウサギがあまりにも先を走り、独走態勢なのでからあきらめそうになってしまいます。でもお話の中のカメは、ウサギを意識せずに、自分のペースでしっかりと前だけを見て走り続けた結果、一番にゴールへ到着できたのです。

一方、ウサギが意識したのは、あくまで「カメ」です。ウサギにとっては「カメとの勝負」こそが問題だったのです。なぜなら、スタートからずっとライバルとして「カメ」の様子を意識していたからです。だから、「カメは遅いから寝ても良い」という考えを起こして、油断をしてしまったと思います。ウサギは「カメ」に勝てれば、それで良かったのです。まして、すんなり勝つのはもったいないから、「カメに悔しい思いをさせたい」と考えたのではないのでしょうか。

お互いを高めることのできる「良きライバル」は必要と思いますが、相手との勝ち負けだけを目標とすると、やがて行き詰まってしまうこととなります。

しかし、自分自身が競争相手なら違います。努力をしなければ到達できない少し高い目標を設定することによって、自分を鍛えることができます。もし、その時は達成できなくとも、またチャレンジして目標を達成することだってできるはずですよ。

さて、2学期がスタートし、4週間が過ぎようとしています。先日、9月14日（月）には、臨時全校朝会を感染症予防の観点から校庭で実施しました。内容としては、夏休み期間等に各部活動が参加した東村山市中学校スポーツ大会等の表彰です。本紙に詳しい結果を掲載していますが、新型コロナウイルスの影響で都大会等の大きな大会が中止となったことから、本市中学校の学校関係者と本市教育委員会が協力して、「運動部活動の3年生最後の締めくくりの大会」として、保護者の皆様にもご協力いただきながら、無事に実施することができました。受賞した生徒たちは、達成感を味わうことができ、晴れ晴れとした表情でした。ご尽力いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。

生徒の皆さん、表彰されたり、好成績は残せなくても、今まで努力してきたことは決して無駄ではありません。中学生の皆さんには、無限の可能性があり、誰にも将来のことは分かりません。歩みは遅くとも、自分の力で一步一步前進することで、将来への道は確実に拓かれるのです。そして、困難な状況でもあきらめず努力を惜しまない粘り強さを身に付けてください。

蛇足となりますが、「ウサギとカメ」のお話には続きがあり、カメに負けたウサギは、仲間のために名誉を挽回する行動を取り、仲間に再び受け入られます。また、カメは、あまり高い目標に挑戦し過ぎて、不運な運命となるというお話となっています。いつの時代でも「油断大敵」なのです。